

紙づて

一カ月遅れで本年度前期の授業が始まった。入学式は中止、学生は構内立ち入り禁止。前期はすべて遠隔授業となった。

大学が導入した学習管理システムを介して教材を配信し、レポート課題やテストの出題ができる。

オンライン授業の場合、ウェブ会議システム「Teams」やビデオ会議アプリ「Zoom」を使って教員がリアルタイムで授業を行う。ビデオオンなら顔を合わせて双方向のコミュニケーションが可能で、会議チャットで質問・返答もできる。

オンデマンド型は指定期間内に学生が講義データをダウンロードして学習する方式。講義動画や音声入り

遠隔授業

武田 好

のパワーポイント、映像やレジュメ、課題論文等の組み合わせた。

自分の担当科目は初回の音声入りパワポからすべて同時双方向型授業に移行した。まず学生の顔が見える。グルーピングして互いに発話し、レポートについての発表報告や意見交換ができる。パワポや映像を画面共有して、ペン入力画面を使えばホワイトボードと同じになる。

ふと思った。これは四十年前のL教室の授業風景、OHPを使った頃と同じではないかと。ツールは変わっても教わり学ぶことは不変だ。

学生はツイッターやLINEで情報交換し、テレビ電話や多数のZoomで励まし合うという。

さて、私の授業の今週のレポート課題は『デカメロン』である。

(静岡文化芸術大教授)

2020.6.13

2020.6.13

中日新聞(夕刊) P.1